

甲状腺超音波検査費用助成事業の改善

Next あびこ 内田美恵子

我孫子市が今年度からはじめたこの事業の目的は、福島第一原発事故に起因する放射性物質による子どもの健康への影響に対する保護者等の不安の解消を図るためであり、年間予算は25万円。その内訳は一人当たり5千円の助成額で50人分となっています。

また、自己負担額は、検査費用1万2千円の内、市の助成額5千円を引いた7千円。検査内容は、甲状腺超音波検査と血液検査を合わせたもの。検査の実施機関は名戸ヶ谷我孫子病院と聖仁会病院です。

検査を受ける方法は、先ず、市の健康づくり支援課に申し込みをして助成券をもらい、個別に指定病院で検査を受けるというものです。また、検査結果は、後日、医師から説明されることになっています。

事業の周知については、これまで広報「あびこ」や市のホームページに掲載の他、近隣センターや行政サービスセンター等にチラシを置いて広報。

以上がこの事業の概要ですが、事業開始から8ヶ月経った現在の受検者数は9名、ほとんど利用されていません。

先日、このような状況を踏まえて、我孫子の子供達を放射能汚染から守る活動をしている市民団体から、「甲状腺エコー検査費用助成を市民に利用しやすくしてください。」という主旨の要望書がアンケート結果を添えて市長に提出され、同時に議会にも同じものが配布されました。

そこで、次年度に向けて、この事業の改善についてお尋ねします。

質問1. 受検者が少ないことに対する市の見解は？

予算では50人分の助成額を計上していましたが、8ヶ月経過した現在の受検者は僅か9人とあまりにも少ない状況です。要望書に書かれているように、11月6日に我孫子市で行った「関東子ども健康調査支援基金」主催の甲状腺エコー検査では、100人募集のうち約90人が我孫子市民で、締め切り後も20人ほどの希望者があったと伺っています。この状況からみても我孫子市民の要望がなくなったからだとは思えません。

利用者が少ない原因についてアンケート結果からみると、周知不足や費用が高いこと、また、利用しにくい制度になっていることがうかがわれますが、市の見解をお聞かせください。

質問2. 市民の要望書に対する市の見解は？

この甲状腺超音波検査費用助成事業を市民が利用しやすくするために出され

た要望書の要望事項は、

- 1 エコー検査と血液検査は個別に申し込めるようにしてください。
- 2 助成対象者全員に周知されるよう広報してください。
- 3 健康状態を継続的に見守るためには個人で結果を管理することも必要ですので、希望者にはエコー画像も渡してください。

といものでした。各要望項目に対する市の見解をお聞かせください。

質問3. 事業の改善について

現在、来年度事業の予算編成が行われていますが、ますます厳しい財政状況の中、ひとつひとつの事業が

1. 事業目的達成のために適切な事業手法をとっているか？
2. 市民に利用しやすい制度になっているか？
3. 目標値は達成されているか？等、

しっかりと検証・改善し、事業の質を高めていく必要があります。

この事業についての1から3の検証結果と市民が利用しやすい制度にするための改善策をお示してください。